



# 夢風

YUMEKAZE

第100号（平成29年度 No.7）



みなさん、夢風によろこそ。

総合学科開校の2007年に創刊した夢風も、100号を迎えました。題字も書道部の部員（1年4組）が書いたものにリニューアルしました。今号は、記念号として総合学科卒業生の「今」を特集したいと思います。4月に入学した11回生が「産業社会と人間」の授業でライフプランを発表しました。総合学科開校時から続いている授業です。在学中に同じ授業を受けた卒業生も、現在では多方面で活躍しています。今後は、毎号1名ずつ紹介していきます。

📄 「夢風」は Web ページでも発信しています。 <http://www.toyotahigashi-h.aichi-c.ed.jp>

## ● 盛定 愛（1回生、愛知医科大学卒、トヨタ記念病院勤務、高橋中出身）

進学か就職かという進路希望が決まっていなかった私は、資格取得に挑戦して将来の可能性を広げ、進む先を決めようと思っていました。当時はプラン選択制ではなく、自分で科目を選択していました。現在のビジネスプランのような授業を受けて資格を取り、簿記やパソコンの技術を活かせる事務として働こうと考えるようになりました。

しかし、看護師だった祖母の影響もあり、病気になる前に防ぐことができる保健師になろうと考えました。3年の後半に大学進学へと進路を変更しました。とても急でしたが、先生方が親身になって相談に乗ってください、大学に合格することができました。保健師は看護師の免許も必要なので、看護の実習や看護の勉強もしました。新しい知識や技術の習得と実習で多忙な日々でしたが、実習の中で多くの患者さんと関わり、人と向き合うこと、人のためになるのは楽しいと感じることに気付きました。そして今では、看護師として勤務しています。まだまだ未熟な点があり、自分の多くの課題に勉強の日々ですが、患者さんの笑顔や回復していく過程に少しでも力になれることが支えになっています。

振り返れば、最初に考えていた将来とは、まったく違う方向へと進んでいるように見えます。最初に決めていた道を変更することは不安も強く、辛いことや苦しいこともあります。しかし、後悔したことはありません。高校で学んだ情報処理や秘書検定は、大学や今の仕事で使うこともあります。自分の道を自分で選択した経験が成長につながって、今の私になっています。たとえすぐに生きてこなくても、経験はいつかどこかで生きてくる、応用できる時が来るように思います。選択を迷うこともありますが、自分で納得して決めた行動は必ず実を結ぶと思います。ぜひ、1つの道だけではなく、広く周りを見て多くの可能性にチャレンジしてください。



## ● 青山 和揮（3回生・文プラン、愛知教育大学卒、豊田市立朝日丘中学校教諭、井郷中出身）

豊田東高校を卒業して6年が経とうとしています。「夢の実現」を合言葉に、勉強や部活に励んでいた頃が懐かしいです。

大学生活の中で強く印象に残っていることは、ATP（Australia Teaching Practice）と呼ばれるオーストラリアでの教育実習です。私の行った学校は、全教室にパソコン・プロジェクター・電子黒板が配備され、生徒は全員 iPad を持っているなど、日本と教育環境が大きく異なっていました。授業時



間は75分と長く、いかに子どもたちの集中力を維持させるかということがポイントでした。パワーポイントを用いて漢字の成り立ちを説明したり、アニメの動画を見て日本の文化や家族形態について学ぶ授業などをしましたが、どうしたら子どもの興味を引けるかを考え、実践する毎日でした。授業準備は本当に大変でしたが、私の考えた授業にオーストラリアの子どもたちが意欲的に参加してくれる姿を見て、教えることの楽しさ、一生懸命な子どもたちの成長を支える仕事の素晴らしさを実感し、教師という職業への思いを強くしました。



現在は、中学校で英語の教師として教壇に立って2年目となりました。授業や部活、行事などで生徒の成長を身近で感じられる充実した日々を送っています。中学時代から夢見ていた教師という仕事ですが、ここには書ききれないほどの苦勞もあります。そんな苦勞も帳消しにし、これからも教師として頑張っていこうという原動力をくれるのは、やはり生徒たちです。

東高校の卒業生として感じることは、夢を実現した友人たちの存在です。保育士、看護師、美容師、調理師…もちろん一般企業など様々な場所で活躍している友人がたくさんいます。たまに集まって話を聞くのが、楽しみの一つです。皆さんも友人たちと支え合いながら、「夢の実現」に向けて突き進んでください。応援しています。

※合唱コンクールのエピソードをホームページに掲載します。そちらもご覧ください。

### ● 築出 裕美（5回生・音プラン、名古屋音楽大学在学中、矢作北中出身）

4月から病院に就職し、総合相談窓口で事務業務と音楽療法を担当することになりました。

音楽療法とは、意図的・計画的に音楽を用いた活動を通してクライアントの身体的、認知的、心理的、社会的、情緒的な健康の維持・向上を目指すものです。大学では、音楽的な要素だけでなく、心理学や病気、障がいについても学んでいます。また、実習やサークル活動で音楽療法を実践する機会が多くあります。実践は、対象者に合わせて目標を立て、曲を選び、準備と練習をしてから行います。そして活動を記録し、次の目標や選曲に反映させます。病院や施設で行われている音楽療法士による音楽療法と演奏家による演奏会の違いは、その音楽活動や選曲に意味や目的、目標があるかないかということです。



部活動や授業で音楽と向き合っていく中で、実力の問題や将来性など、音楽を続ける自信がなくなってしまうこともありました。自分がこれから音楽とどう関わっていきたいかを考えるうちに、本を読んで音楽療法の存在を知りました。それまで自分の中になかった音楽の価値観や可能性に触れ、純粋に、人の役に立てる音楽というものに魅力を感じ、音楽療法士を目指すことに決めました。

高校生の時は上手く演奏することばかりを意識していましたが、音楽療法を学んだ今は、相手に合った音楽活動を提供するためにはどうしたらいいかと、広い視野で音楽と向き合うことができるようになりました。自分自身もやりがいを感じて活動できているので、この道に進んで本当に良かったと実感しています。4月からようやく音楽療法士としてのスタートラインに立ちます。学んできたことを基盤に、現場に合わせて成長していけたらと思います。まだまだ認知度の低い領域ではありますが、音楽療法とは何か、自信を持って発信していけるような音楽療法士を目指していきたいです。



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



UNESCO Associated Schools

豊田東高校は、ユネスコスクールに加盟し、  
ESD（持続可能な開発のための教育）を推進しています。